

- ニトリルゴム系スポンジガスケット
用途はクロロブレンゴム系スポンジガスケットと同じだが、難燃度は、トップクラスである。又植物油にも強い耐性を示し、経年変化による劣化も少ない。
- 無機高充填フォームプラスチック
この製品も共板フランジ工法用である。難燃度はニトリルゴム系スポンジガスケットより劣るが、クロロブレンゴム系スポンジガスケットよりは良い。上記二製品より耐薬品性が高い。
- 塩化ビニール
経年変化による劣化が殆どなく、クリーンルームなどのノン粉塵用にもっとも適したガスケット材。
耐燃性（難燃性を示すJIS用語）は上記三製品より低い、シール性は一番良い。
- ロックウール繊維
無機繊維系（不燃性）の一つ。建設大臣認定を受けたものと受けていないものがあるので注意が必要。スポンジガスケットと比べ、シール性は悪い。
- ガラス繊維
無機繊維系（不燃性）の一つ。建設大臣認定を受けたものと受けていないものがあるので注意が必要。スポンジガスケットと比べ、シール性は悪い。素手で触ると繊維の構造上ロックウールよりもチクチク（痛感）する傾向にある。
- ブチルシーラー
一般的にブチルゴムと呼ばれているが未加硫（粘土状のゴム）状態のため正式にはシーラーの部類に入る。以前の製品は、耐油性に乏しく厨房系の用途には向かなかったが、最近はその点の改良品が多くなり一般的になってきている。しかしながら一部油分解する製品も流通している、注意が必要。
熱による形状変化率が大きく、厨房で使用する場合は比較的温度の低い場所で使用するのが望ましい。
- シリコンゴム系スポンジガスケット
スポンジガスケットは、一般的に熱が加わると硬化する傾向にあり、ひずみ率（圧縮した状態から復元しない。当然数値の高いほうが低性能である。）が高い。しかしシリコンゴムスポンジは、復元率が高く、一番厨房用としての用途に向いているといえる。但し、コストは、割高である。

b) ガスケットの選定

ガスケットの材質性能の向上は基本的な必須事項であるが、使用に際しての選定が大切である。例えば、耐熱性が120℃程のクロロブレンゴム系スポンジガスケットを直接炎などの影響のある箇所に使用したり、共板式フランジに厚さ3mmのガスケット材を使用して、空気漏れを起こすなどのトラブルもある。要するに、施工箇所に必要な機能を満足する材料を選択すべきである。例えば、共板式フランジにスポンジガスケットが使用されるのは、柔軟性、シール性、耐候性